

令和2年度（2020年度）行政評価シート【個表】

令和 2 年 8 月 17 日

評価対象事業		評価者	浄化センター所長 森田 和孝
都整-46	実施事業	管渠維持管理費(特別会計) ■ 自治事務 □ 法定受託事務	主管課 浄化センター
			関連課 道水路管理課・下水道河川課
総合計画上の位置付け	分野	下水道・河川	施策の方針
			下水道の整備・管理

1 事業の目的

対象	市民等
意図	既存管路施設の機能維持を図り、流入汚水の処理を継続して、適正な施設機能の維持管理を行うため。
効果	既存管路施設及び汚水送水施設の機能維持と延命を図る。

2 令和元年度(2019年度)に実施した事業の概要

汚水中継ポンプ場の適切な維持管理を行い、汚水の安定送水を図った。

3 事業費等基礎データ

データ区分	30年度(2018年度)決算	01年度(2019年度)決算	データ区分	02年度(2020年度)当初予算	備考
人口等のデータ	人口	176,308人	人口		・各年3月31日 (住民基本台帳)
	世帯数	81,763世帯	世帯数		
	事業の対象者数		事業の対象者数		
運営資源状況	決算値(千円)	61,708	72,468	当初予算(千円)	
	国県支出金			国県支出金	
	地方債			地方債	
	その他	58,717		その他	
	一般財源	2,991	72,468	一般財源	
	人員配置数	1.5	1.5	人員配置数	
事業経費運営	総事業費(千円)	73,180	84,327	総事業費(千円)	
	市民1人当りの経費(円)	415	478	市民1人当りの経費(円)	
	対象者1人当りの経費(円)			対象者1人当りの経費(円)	
	人件費(千円)	11,472	11,859	人件費(千円)	0

4 評価結果

※「効率性」「妥当性」「有効性」「公平性」「協働」については、プルダウンで選択。

効率性	事業費に削減余地はないか	2. ない
	関連・類似事業との統合はできないか	3. 統合できない
妥当性	事業の実施に対する市民ニーズはあるか	3. 変わらずにある
	事業の廃止・休止による市民生活への影響は大きいか	3. 廃止・休止による影響は大きくある
有効性	事業の成果は得られているか	3. 十分な成果が出ている
	事業の上位施策に向けた貢献度は大きいか	3. 事業の方向性や手法は概ね適切であり、一定程度貢献している
公平性	受益者負担は公正・公平か	○-1. 既に受益者負担を求めているが、今後、その額や対象等を再検討する必要がある
		△-2. 市民等と協働して事業を実施することはできない
協働	市民等と協働して事業を展開しているか	△. 協働未実施
		協働実施済の場合のパートナー
事業内容の方向性	<input type="checkbox"/> a: 事業内容を見直す ⇒ <input type="checkbox"/> b: 事業内容は現状通りとする <input type="checkbox"/> c: 事業を休止又は廃止する <input checked="" type="checkbox"/> d: 他事業と統合し、本事業は廃止する ⇒	見直しの種類 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> その他
		見直しの内容 下水道 事業へ統合
予算規模の方向性	<input type="checkbox"/> A: 予算規模を拡大する <input checked="" type="checkbox"/> B: 予算規模は現状維持とする <input type="checkbox"/> C: 予算規模を縮小する	事業内容・予算規模の方向性設定の理由 第4期基本計画実施計画において下水道事業会計に係る予算については、公営企業会計に移行したことからすべての事業を「下水道事業」に統合した
	総評(評価に対する考え方、根拠等)	下水道は市民生活にとって欠かせない社会基盤施設であることから、事業の必要性は高い。今後も引き続き機能を確保し、十分な成果が得られるよう適正な維持管理に努めていく。

令和元年度(2019年度)事業実施にあたっての課題(前年度未解決の事項を含む)	中継ポンプ場の機械設備・電気設備の改築更新は平成21～28年度にかけて実施した。初年度(平成21年度)に完成した中継ポンプ場は完成から10年が経過し、既に耐用年数を迎えている設備もある中で、将来廃止を視野に入れた維持管理をしていくことが課題となる。 市内57箇所の汚水低地排水ポンプ場は、その大部分が老朽化しており、事後保全型管理を中心とした対応となっている。このため、汚水低地排水ポンプの故障時の溢水対策や施設管理を予防保全型中心にシフトしていくことが課題となっている。	
課題解決のために行った令和元年度(2019年度)の取組	中継ポンプ場については、日常の点検に加え専門業者による点検を行いながら、必要に応じて修繕を行った。 汚水低地排水ポンプ場については、ポンプ故障時の溢水対策の一環として、緊急しゅんせつができるよう予算化し、実施した。	<input type="checkbox"/> 解決 <input checked="" type="checkbox"/> 一部解決 <input type="checkbox"/> 未解決
未解決の課題、新たな課題とその理由	中継ポンプ場は、建築躯体を含め老朽化が進んでいるため、持続型下水道幹線再整備事業の進捗状況を見極めた維持管理を行っていくほか、汚水低地排水ポンプ場は、将来予防保全型にシフトしていくことを前提とした適切な維持管理が課題となる。	

○ 他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項								
団体名								
他市実績								

当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方	
----------------------	--

◎ 事業実施に係る指標

指標の内容	単位	指標の傾向		備考					
当該指標を設定した理由		年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)	
		目標値							
		実績値							
		達成率							

当該事業実施に伴う指標の推移に関する考え方	
-----------------------	--